

巻頭言

「夢を持つこと、夢を追うこと」

「夢」を持っていますか？

「夢」を追っていますか？

最近の学会などでの発表を見たり聴いたりするときに、思わずこう尋ねたくなることが何回もある。プレゼンテーションソフトウェアで作成された華麗な発表、一見隙の無さそうにみえる美しく印刷されたポスター。論理構成もまづまづだし、質問への受け答えもそつが無い。しかし、どうしてこの研究をしているのかと問われると、答えに窮するのではないか。

「夢」というのは、はじめは漠然としたものである。しかし、本当に価値があるものなのか、自分の全身全霊をもってとりかかることができるのか、自問自答を重ねていくことで、堅固なものになる。もちろん、時間が経てば変わってくるものでもある。一方で、狭い研究分野に固執することや、他の研究者の意見を聞かないことは、「夢」を追うことではない。

「夢」を持ってとりかかるとは、見かけの評価が高いが「夢」の無い研究よりもずっと楽しい。「夢」は「目標」「目的」である一方、ときには「矜持」であり「使命」でもある。目先の実利ではなく「夢」を追う者には「志」があり、厳しい道を進む「胆力」がある。「夢」に惑わされることもあるが、恐れてはならない。それを乗り越えて「夢」を再構築すればよいのだ。

今から20年近く前、ようやく大学院を終えて博士を取った私。意気揚々とはほど遠く、将来への不安感是非常に大きい。しかし、一度海外に出て、惑星科学の広い世界を見てみたいという意識は人一倍強い。当時は日本の惑星科学の範囲はまだ狭かった。ちょうどそのころ、コマーシャルソング（たしか予備校の）で流れていたのが、「夢をあきらめないで」。かなり単純思考であった当時の私は、なるほど、まだまだ進まなければいけないという気持ちを強くして、海外へ出た。

アメリカでポスドクとして研究をしている間に、惑星探査に関わりたいと思うようになった。そのうちに、日本の力で諸外国に負けない惑星探査ができるのならそれに参加したい、いつかは着陸探査を行いたいと考えるようになった。これから10年、20年、と自分が進むべき道が見えてきた。そして、何が自分にできるのか時間をかけて考えた。今でもその「夢」の実現に向けて進んでいるつもりである。

佐々木 晶（国立天文台）